【絵巻「大江山絵詞」第５巻第２段】

日ころハさしもかたくおさめしもん(門)
戸、いしのついち、くろかねのもんをも
その夜、悪さけ(酒)にえひ(酔)布(ふ＝臥)して、よう(用)
しん(心)するものもなかりしかは(ば)、ふしたる
ものともをさしこえ／＼(さしこえ)とをり給ふに、
ふしきなる、さてとかむるものもなき
ままに、ちう／＼のかためをなんなくと
をりて見れは、いしはし(石橋)あり、あかり
て見れは、くろかねのへい(塀)あり、おなしく
門あり、戸をさゝ(鎖)されは(さざれば)、こゝ(こ)をもとをり
ぬ、そのゝちたかさ十ちやうハかりなる
せいろう(正楼)あり、くろかねの戸ひらをたて、
うちよりくハんの木(くわんのき＝門)をわたし、くるゝ木(くるるぎ＝枢木)を
さしかためたり、なにものにても、やふり(破)
ている(入)へきやうそなき、ろうのうちを見
れハ四ほう(方)にともし火たかくかき
たてゝ、まくらに大まさかり、あとにハかな(鉄)
さいほう(尖棒)、そのほか、ほこ共たてならへたり、
とうし(酒呑)童子かふし(臥)たるを見れは、きのふの
すかた(姿)にはあらす、ふしたるたけ二しやう(二丈＝およそ６ｍ)
はかりなるか、かしらはそらにあかり、ま
つけはあかゝねのはりをたてたるかことし、

手あしを四方になけまハして、女ハう
十人ハかりをまハりにをき、なてよ、さす
れよとて、たかいひきをして前後も
しらすふしたりける、この女房たちハ
人〳〵を見つけて、うれしさかきり
もなし、もしやおとろきあからんと、
きもをけし、いかゝしてか戸をあけんと
おもひけれ共、かなふへきにあらす、たゝ
たちさわきて、きもをけすよりミついけ
も今ハたゝこゝひとへなり、いそきいらんと
おもへとも、何としてか、うちやふり
いりぬ
へき